

| | | | | | | | |
|------|-----------|------|----|------|---|------|------|
| 科目名 | 宗教学研究 [院] | | | | | 単位 | 2.0 |
| 担当教員 | 菱木 政晴 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 開講期間 | 前期 | 配当年次 | 1 | 授業番号 | 3481 |

●授業のテーマ

支配イデオロギーとしての宗教と解放の宗教

●到達目標

近代宗教学の学問としての成立根拠を確認し、「宗教の定義」（何が宗教であって、何が宗教ではないか）と「宗教の評価」（研究対象となっている宗教に対する価値判断の基準）とがどのように扱われてきたかについて、理解し説明できるようにする。また、支配イデオロギーとしての宗教という概念について批判的な考察ができるようにする。学位論文や専門的な研究論文とはどのようなものかがわかる。

●学習内容(授業概要)

近代宗教学の学問としての成立根拠を確認し、「宗教の定義」（何が宗教であって、何が宗教ではないか）と「宗教の評価」（研究対象となっている宗教に対する価値判断の基準）とがどのように扱われてきたかを考察する。

ついで、宗教現象を客観的に研究する根拠となったヨーロッパのヒューマニズム思想を学ぶ。最終的に、仏教という宗教が解放の宗教として成立する条件を考察する。後半三分の一は、高木顕明『余が社会主義』を手掛かりに、東西の宗教哲学の比較を行う。

●学習内容(授業計画)

1. 宗教学とはどのような学問か/宗教・呪術・科学
2. 宗教の定義と宗教の評価
3. 支配イデオロギーとしての宗教と解放の宗教
4. 解放の宗教と解放の思想、あるいは、ヒューマニズム哲学①マキアベリとホッブズ
5. ヒューマニズム哲学②ロック
6. ヒューマニズム哲学③カント
7. ヒューマニズム哲学④アダムスミスとマルクス
8. 宗教哲学の方法・超越と内在
9. 超越的なものとそれに対する態度
10. 専修念仏の宗教哲学 高木顕明『余が社会主義』を例に①社会主義と浄土
11. 同②超越的な神と内在的な仏性および方便法身
12. 同③往還二回向
13. 同④往還二回向と方便法身
14. 同⑤社会批判的な自覚としての機の深信
15. 総括/レポート作成の要領

●準備学習・事後学習の内容

特に必要ないが、とにかく論理的思考を磨くために、講義内容を覚えるのではなく、講義で提示されたデータや論理構造を自分で吟味し、自分の論理を構築する練習をする。自分の論理を構築すること自体は、いかなる学習においても求められる。

●成績評価方法・基準

定期の筆記試験、あるいは、レポートによる。

●テキスト（必携）

なし。

●参考文献／その他

菱木政晴『解放の宗教へ』（緑風出版）、『非戦と仏教』（白澤社）、『ただ念仏して』（白澤社）、『極楽の人数』（白澤社）。その他；授業中に適宜紹介する。

●履修上の注意

特になし。